

## 1 事業名 青少年教育指導者ミーティング

## 2 必要性

独立行政法人国立青少年教育振興機構の中期計画（平成 18 年 4 月）に「青少年をめぐる諸課題への円滑な対応が可能となるよう、青少年教育に関する施設及び団体間の連絡・協力を促進する」「青少年教育施設・団体相互間の連絡・協力の促進を図るため、青少年教育施設の連絡会の開催・情報交換等を行う」とある。青少年教育関係機関・団体等の全国的なネットワークづくりや地域のネットワークづくりを推進する方策が示されている。

本事業は、担当施設で取り組んでいる体験活動を参加者全員で体験することを通して各施設のプログラム開発・実践に活かしたり、当施設が先導的モデル的事业等を実施した成果を、公立青少年教育施設・青少年団体等に普及させたりすることを主たる目的とした事業であり、国立青少年教育振興機構の施設として積極的に取り組むべき事業である。

## 3 趣旨

青少年教育施設・青少年教育団体に所属し事業を企画・運営している担当者やその事業を支援している学生ボランティアが集まり、企画事業に関する情報・ノウハウなどの情報交換を行う中でお互いの事業について理解し、企画運営に関する学びを深める。

## 4 協力

鳥取県教育委員会家庭・地域教育課，島根県教育庁社会教育課，島根大学教育学部附属教育支援センター，鳥取県立船上山少年自然の家，鳥取県立大山青年の家，島根県立青少年の家（サン・レイク），島根県立少年自然の家

## 5 期日

第 1 回：平成 23 年 5 月 18 日（水）～平成 23 年 5 月 19 日（木）  
（会場 島根県立少年自然の家）

第 2 回：平成 24 年 2 月 23 日（木）～平成 24 年 2 月 24 日（金）  
（会場 国立三瓶青少年交流の家）

## 6 参加者

### (1) 募集対象・人数

山陰地区の青少年教育施設等職員と学生ボランティア 10 名

### (2) 参加人数

第 1 回 22 名（島根県 20 名，鳥取県 2 名）

第 2 回 17 名（島根県 15 名，鳥取県 2 名）

## 7 講師

柳楽 天児（研修指導員 かんじきハイキング指導）

坂本 弘治（研修指導員 かんじきハイキング指導）



## 8 参加経費

第 1 回：島根県内参加者 3,570 円（食事料金 4 食 2,540 円，施設使用料 1,030 円）

島根県外参加者 4,080 円（食事料金 4 食 2,540 円，施設使用料 1,540 円）

第 2 回：1,800 円（食事料金 3 食 1,600 円，シーツ等洗濯料 200 円）

## 9 事業の内容

### (1) 事業の特色

本事業は、平成 19 年度に島根県内の青少年教育施設職員から、「指導系の職員が集まって情報交換や研修を行う機会が欲しい」という要望が多くあったため、当施設がコーディネーター役となり、平成 20 年度に公立青少年教育施設・青少年団体等との連絡協力促進事業「青少年教育指導者ミーティング in SANBE」として当施設で年 2 回開催した。

その後、ふりかえりの中で「他の施設でも体験したい」という意見が多く出たため、平成 21 年度からは年 2 回開催のうちの第 1 回は当施設以外の施設の持ち回りで開催し、第 2 回は当施設で開催することになった。

本事業は、各施設の事業担当者を中心に、大学の教員やボランティアを参加対象としている。各施設の活動プログラムを体験したり、事業の成果や指導方法を協議したりすることで、参加者同士のワーキングネットワークを構築することと、自施設において学んだ内容を実践できることをねらいとしている。

### (2) プログラムデザインと企画のポイント

#### ①プログラム提供の工夫

本事業の第 1 回は島根県立少年自然の家、第 2 回は当施設で行うため、その施設独自の活動プログラムを他の施設職員等の参加者に体験してもらい、今後の活動プログラムの普及になるように企画した。

具体的には、第 1 回では「やぐらづくり」体験を企画した。これはグループで協力しないと成り立たない活動であり、人間関係づくりの観点から年々この活動を取り入れる団体が増えている。他の施設でも人間関係づくりを期待する団体が増えているので、この「やぐらづくり」のような活動があることを紹介することで、自施設の活動を考えるうえで役立ててもらえるよう企画した。



第 2 回の当施設が提供する活動プログラムは、「スポーツ雪合戦」と「かんじきハイキング」体験を企画した。「スポーツ雪合戦」は雪がない時は室内で活動できるものであり、他の施設でも活用できる。また、「かんじきハイキング」は自然観察を兼ねているので、雪のない早春の時期にも十分活用できるものである。

他の施設への普及ができるよう、以上の 2 つのプログラムを企画した。

#### ②ミーティング（協議内容）の工夫

第 1 回では、施設職員が入所団体へ野外炊飯活動の指導をしているところを参観し、その指導の仕方について協議するよう企画した。そのなかで、参観するにあたり、①事前の指導 ②活動中の指導 ③事後の指導 の 3 つの場面に分け、気になるところを K J 法で洗い出し、全体で協議できるようにした。

第 2 回では、「ねらいに応じたプログラム提供の工夫」として、活動プログラムの提供の仕方について考えられるよう企画した。これは、第 1 回の話し合いの中で発表された「第 2 回で協議したい内容」として最も希望が多かったものである。内容は、「より良い人間関係を築く力を育てる」「決まりやルールを守る力を育てる」「自ら考えて行動する力を育む」という 3 つのねらいに応じて、野外炊飯・登山・オリエンテーリングをどう提供できるかを考えるようにした。提供の仕方を考えるに当たってはブレインストーミングの手法を使い、さまざまなアイデアの中から自分の施設に持ち帰ってすぐに使えるような活動を見いだせるように

工夫した。

### (3) 広報のポイント

山陰地方の5施設すべてから参加が得られるように担当者間で連絡を取り、本事業の趣旨を説明して参加を促した。また、島根・鳥取両県の教育委員会や大学にも広報し、多数の参加を得られるよう広報した。

### (4) 日程表

#### 第1回 島根県立少年自然の家

5月18日(水)	11:00	12:00	13:00	17:00	21:00
受付	【オープニング】 ・オリエンテーション ・アイスブレイク ・自己紹介	昼食	【プログラム体験】① ・やぐらづくり	【プログラム体験】② ・野外炊飯(BBQ) 【ミーティング】 ・施設の持つ課題	・シャワー ・就寝

5月19日(木)	6:30	7:00	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00
起床・掃除	朝食	【活動指導見学】 ・カレー作り (小学校団体)	昼食	【協議】 ・指導の在り方 ・指導の留意点	【まとめ】 ふりかえり わかちあい 次回への展望	解散	

#### 第2回 国立三瓶青少年交流の家

2月24日(木)	13:30	14:00	15:30	17:10	18:30	21:00
受付	【オープニング】 ・ねらいの共有 ・アイスブレイク ・自己紹介	【プログラム体験】① ・スポーツ雪合戦	【ミーティング】 ・ねらいに応じたプログラム提供①	夕食のつどい	【ミーティング】 ・ねらいに応じたプログラム提供② ・情報交換会	入浴就寝

2月25日(金)	6:30	9:00	12:00	13:00	14:00
起床	朝食のつどい	【プログラム体験】② かんじきハイキング	昼食	【まとめ】 ふりかえり わかちあい 来年度の展望	解散

### (5) 運営のポイント

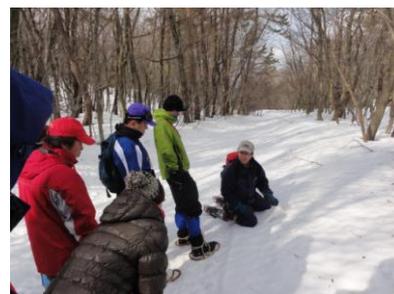
#### ①小グループの編成

本事業では、各施設等の職員同士のワーキングネットワークの構築もねらいの一つとしている。そのため、グループで活動する時には同じ施設で固まらないようにし、小グループでの活動を通して親睦を深められるように配慮した。

#### ②講師による専門的な指導

第2回の活動の「かんじきハイキング」では、三瓶の自然について詳しい講師2名を招いて、かんじきハイキングとともに自然観察について解説を受けた。自然観察では、晩冬から早春に

向けての自然観察を中心に、春を迎える木々の準備の仕方、虫の越冬の方法、雪の観察のポイントなど、丁寧にわかりやすい指導を受けた。アンケートにも、「いい天気の中早春の三瓶山を歩き、自然の話聞き、有意義な研修を受けることができました。」とあり、参加者の学びを深めることができた。



## (6) 安全管理のポイント

第1回では、指導の仕方の協議の中で、「安全面について」という視点を設け、参加者全員で野外炊飯の安全について考えることができた。

また、第2回では、かんじきハイキングの行程や時間について講師との打合せを密にするともに、参加者の意見も取り入れ、参加者の体力に合うように安全に活動できるよう配慮した。

## (7) アンケートの満足度・おもな記述

### 第1回

満足 14名 (82%) やや満足 2名 (12%) やや不満 0名 (0%) 不満 0名 (0%)

- ・様々な施設の方と情報交換ができてよかった
- ・入所団体の活動を見学することは初めてであったが、有意義だった
- ・多数の人が見るとさまざまな見方をすることができ、自分では気づかない部分も知ることができて勉強になった
- ・「やぐらづくり」では、1つの企画を実際に体験することで、その企画を行う子供たちの立場に立って活動の良さや大変さを感じることができた。また、その活動の説明の仕方等の工夫も知ることができた。
- ・情報交換や協議については、それほど多人数ではないので、もう少し時間を取り、全体で話し合ってもよいように感じた。
- ・「やぐらづくり」のプログラムは、初めて参加させてもらったが、とてもよかった。やぐらを完成させるには一人一人の持っている力を出すことと、その力を合わせる(協力する)ことが不可欠であるという点、協力した結晶が形として残り、目で見られるという点等でとても素晴らしいプログラムだと感じた。同じものを私の所属施設でやるということは簡単なことではないが、参考にしたいと思う。大変お世話になり、ありがとうございました。
- ・他施設と交流がはかれたのが一番良かった。

### 第2回

満足 7名 (100%) やや満足 0名 (0%) やや不満 0名 (0%) 不満 0名 (0%)

- ・冬の三瓶を感じるプログラムができ、また交流もでき、とてもよかった。
- ・時間的にゆとりがあってよかった。
- ・プログラム提供のグループワークも、ブレインストーミングを考えながら皆さんが意見を出され、よかった。
- ・体験活動もよかったし、ミーティング内容もタイムリーで参考になった。
- ・ハイキングで講師をしていただいた2名の先生方の説明の内容や心の広さが素晴らしい。
- ・当所がちょうど取り組み始めた(プログラム相談)内容だったので、大変役に立ちました。
- ・職員の方の“おもてなし”精神があちこちで伺うことができ、ありがたく思いました。
- ・とても有意義な時間になりました。大学として、学生がボランティアとして参加し、各施設での学びとかを聞かせてもらえるような機会があれば、そこでの話をまた学生の指導に活かしていきたいと思えます。

・この事業を通して交友・ネットワークが広がりました。ありがとうございました。

## 10 成果と今後の課題

<成果>

### ①ワーキングネットワークの構築

一緒に活動したり、一つのことを協議したりすることを通して、参加者同士の親交を深めることができた。また、各施設から活動プログラムについての情報提供があったり、施設の取り組みや悩み等についても相互理解することができたりしたので、今後連携事業をする上でも役立つワーキングネットワークを構築することができた。

### ②日常業務の見直しと普及

第1回の「活動指導見学」、第2回の「ねらいに応じたプログラム提供の工夫」とも実践的な内容であったので、参加者それぞれが今までの自分自身の指導を振り返り、見直すことができた。また、第1回・第2回の内容とも各施設ですぐに活用できるものが多くあり、活動プログラムとして活用したり、日常の指導に役立てたりできるものを多く得ることができた。



<課題>

### ①ボランティアの活用

今回のミーティングでは、第1回・第2回ともボランティアの参加呼びかけはしたが、参加者はいなかった。この原因としては、第1回はミーティング開催が5月中旬であったため、ボランティア募集をした期間が短かったこと、第2回は逆にボランティアの募集開始時期が第2回の開催時期よりもずっと早かったため、時間的なロスがあったことが考えられる。

今後は、学生ボランティアの参加を積極的に働きかけるとともに、活動内容もボランティアにとって魅力あるものにし、多数の参加を望みたい。

### ②ミーティング（協議内容）の検討

第1回では、施設職員以外では、島根県教育委員会社会教育課からと島根大学教育学部附属教育支援センターから、第2回は島根大学教育学部附属教育支援センターから参加を得た。参加者全員が満足いく事業を続けていけるよう、協議内容等も施設中心に固めることなく、青少年教育に携わる指導者全員で共有できるものにしていく必要がある。そのため、第1回では施設の在り方や指導に関わることなどを協議し、第2回ではボランティアの活用などについて協議するようにして、全2回を通して参加者全員が満足いく事業を続けていけるよう配慮したい。

## 11 普及計画・普及実績

山陰地方の青少年教育施設の指導系職員に対し、直接当施設の活動プログラムなどについて広報することができた。

成果については当施設ホームページで紹介する。また、事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。

(担当 竹下修二)